

---

大会長講演

## スポーツ支援を通じて人々の健康を支える

安部 聡子 (昭和大学保健医療学部看護学科・昭和大学スポーツ運動科学研究所)

周知の様にCOVID-19の感染拡大は、医療界、特に看護業界には大きな爪痕を残している。多くの看護師が、現場で疲弊しながらも、日々使命感を持って奮闘する様子は、心より看護師という仕事の偉大さを感じる。一方で、本学会では、スポーツ活動や健康運動をサポートする看護師が集まっている学会である。長引く自粛要請、緊急事態宣言で人々は外出を控え、運動する機会が減量したことは、既に多くの調査報告で明らかになっている。この影響が、今後様々な疾病への契機とならないように対策を講じる必要がある。減少した運動機会を回復し、After/With コロナの中で、スポーツ・健康運動をする際には、感染管理に留意して、安全・安心に実施することが求められる。そこには、感染管理の知識を広く持ち、対応ができる人材が必要であり、看護師が適任であると言える。同様に、スポーツ競技では常に傷害発生のリスクがあり、時として命に係わる事態も起こる。これに関しても医療的知識と救護技術を有する看護師を配置することが重要であり、学会が認定している健康スポーツナースを広く活用することを推奨したいと思う。これまで、スポーツ分野のスタッフという位置づけにおける看護師の存在は、世間的な周知度が低く、その必要性も希薄であったと感じる。しかしながら、前述のように医学・救護・感染管理の知識・技術の他にも人を全人的にアセスメントする能力に長けている看護師は、健常者から疾病を有する人々に、そして障害者競技者、トップアスリートに至るまで、あらゆるライフステージの対象者の支援をすることが可能だと考える。

本講演では、スポーツという側面から人々の健康を支える看護師の必要性について、現状の課題と今後の展望について報告する。また、演者がこれまで実施してきたアスリートへの栄養サポート面からの研究報告も踏まえて、看護師としてのスポーツ支援の在り方をお伝えできればと思う。

### 【略歴】

横浜市内及び都内の総合病院で12年半、脳神経外科・ICU病棟で看護師として勤務した。その後、鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科に進学・卒業(4年間)、管理栄養士免許を取得した。卒業後、昭和大学大学院保健医療学研究科に進学・卒業して、修士号を取得、2016年に同大学院博士後期課程を修了、保健医療学博士号を取得した。2012年に昭和大学保健医療学部に講師として入職、2018年～同大学で准教授、2022年～教授となる。また、現在学生教育及び研究の他、兼担として昭和大学スポーツ運動科学研究所の栄養部門でメディカルチェック等を担当している。